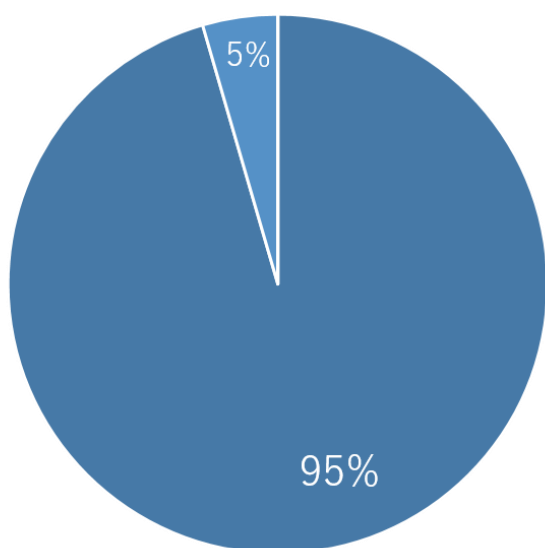


第Ⅰ回評議員会および研修会① アンケート結果

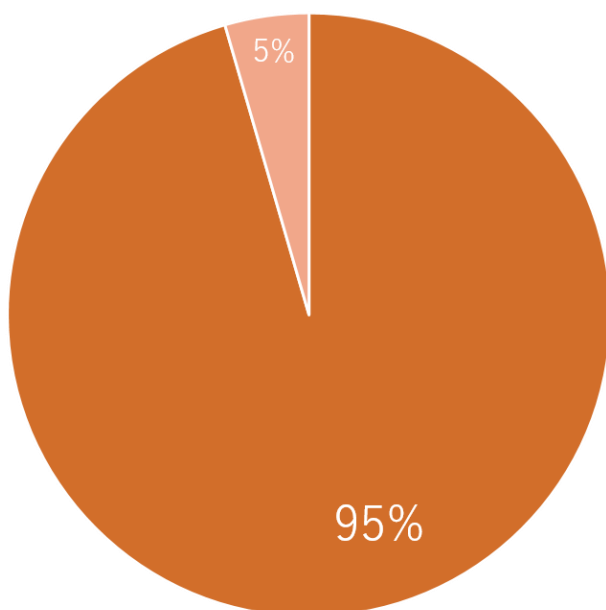
研修会の平均評価 : 4.64 / 5

映像や音声について



- 問題なく視聴することができた (21票)
- 一部、視聴しづらいときがあった (1票)
- 全く視聴できなかった (0票)
- その他 (0票)

議決の方法について



- 今回の方法で良い (21票)
- その他 (1票)
 - ・ 事前アンケートでもいいのかと感じた

評議員会の運営について(一部質問には回答)

○特になし

○運営お疲れ様でした。スムーズな運営だったと思います。

○お忙しい中運営お疲れさまです。

○お疲れさまでした。

○スムーズな進行ありがとうございます。

○議決方法が Zoom 投票機能でとてもスムーズでした。

また、諏訪先生の講義も、当事者に対しての我々の考え方や捉え方次第で方向が変わること、生徒のより良い支援のためにも本校の他職員に聞かせたいと思った。

○分科会実践事例様式①について、提案者は3事例以上の提出と有り事務局の趣旨に賛同いたしますが、提案校の実情に応じて取り組みたいと思います。

○研修会並びに評議委員会の準備から円滑な会の運営等、誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

○評議委員会においては、議事の進行が大変スムーズで、限られた時間の中でも要点が整理され、効率的に議論が進められたことに感謝申し上げます。zoom での開催より、移動の負担がなく、遠方からでも参加できた点も良かったと感じております。事前の資料準備や進行にご尽力いただいた関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

〈質問等〉

●運営お疲れ様でした。たまに、発言者以外の音声が入っていたことだけが気になりましたが、その他は、全般的に運営は良かったと思います。

ただ、分担金納入状況(P.15)が悪いように思えましたので、未納の学校は今後、支払ってくれるのでしょうか？

《回答》

音声については、次回以降司会以外はマイクをオフにするよう適宜促したいと思います。未納の学校には適宜連絡を取って対応しています。

●今年度から役員になりましたが、わからないことが多い中、研究大会の分科会を担当することは前年度から伺っていました。会議の中では質問できない雰囲気です。分科会も中頭地区が担当ということは承知していますが、どなたにどのように詳細を伺えばいいのでしょうか。発表者、記録者を各学校に依頼する場合の手続きも丁寧に進めたいです。

《回答》

会議の中で質問ができない雰囲気になり申し訳ございませんでした。後日改めて質問があり質問者へ個別に事務局よりご回答いたしました。各支部によって引き継ぎの手順が異なりますので前年度の担当者に確認していただき、尚ご不明な点がございましたら事務局までご連絡ください。

研修会について(講師への質問等)

○分かりやすい講話で興味深く聞くことができた。

○障害についての考え方、学校での認識と社会とのギャップについて考えさせられました。特別支援学校は障害理解についての啓発活動にも取り組んでいく必要があるのかなと感じました。

○障害の捉えや ASD の学習スタイルなど印象的でした。貴重なお話ありがとうございました。

○大変勉強になりました。ありがとうございました。

○温かい気持ちになる言葉の数々。考え方の視点の転換が子ども達の育ちや家族への伴走につながり、そして職員の指導支援の専門力向上につながるよう、頑張りたいと思います。また、講演等でお話を聞かせて頂きたいで

す。本日は、ありがとうございました。

○本校は、高校と高等支援学校の併設校です。今回のご講話を聞いて、高等学校の教職員や生徒に、差別や偏見が起こらない共生の意識を高めていきたいと思いました。御講話ありがとうございました。

分かりやすいご講話ありがとうございました。実践に繋げて取り組みたいと思います。

「Different...Not less (違うだけで、劣っているわけではない)」「違う脳の構造と機能を持った子どもたちなんだ」「学習スタイルの違い⇒自閉症の文化」「みんなにえこひいきしてください⇒それが、一人一人に合わせた支援にもなる」「支援について：平等と公平さ」「一人ひとりに合わせた支援の上に成り立つ「公正な」社会をめざそう」等々、たくさんのキーワードと多くの示唆をいただきました。改めて特別支援教育の重要性を再確認できました。本日の学びを本校職員にも還元いたします。いつの日か本地区・本市の校長研修会等でも、今回のお話をしてほしいです。諏訪先生、本日は貴重なご講話を誠にありがとうございました。今後ともよろしくお願いします。

○「障害をとりまく事実」についての講話の中で、9割近くの人が、障害があることで将来、差別や偏見を受けるとイメージしているという調査結果を知り、大きな衝撃を受けました。インクルーシブ教育を推進する立場として、この現実を受け止め、子どもたち一人ひとりの違いを尊重し合える環境づくりがいかに需要であるかを改めて実感しました。さらに、理念を掲げるだけではなく日々の教育実践の中に工夫を凝らし、こどもたちの学びや育ちを支える具体的な取り組みが必要であることも感じました。今回の講話を通して、自分自身の考え方や実践を振りかえるよい機会となりました。